

ヨ - ネ病 (Johne's disease)

ヨーネ病は 牛・めん羊・山羊・水牛・しか などの反すう動物に慢性の頑固な下痢、乳量の低下、削瘦等を引き起こし、家畜法定伝染病に指定されています。

原因は *Mycobacterium avium subsp. paratuberculosis* (マイコバクテリウム・アビウム 亜種 パラツベルクローシス) : ヨ - ネ菌で、パラ結核菌とも呼ばれています。

疫 学

感染経路は、下痢等の症状がなくても、ヨーネ菌は腸管内で増殖し、糞便中に排出され、糞便(糞便中に大量に排菌)で汚染された乳汁、水、餌などを介し、**経口的に感染**します。また、母牛から子牛への感染もあります。妊娠中の母牛から胎児に感染する胎盤感染、乳汁中に排出されたり、汚染された初乳による**新生子牛の感染**があります。特に新生子牛は、成牛より感受性が高く、感染率が高いという特徴があります。

発症は3～5歳で多く、分娩のストレスで発症する場合は特に多い傾向があります。

この病気の最も恐ろしいことは、**感染していても症状を示さない**場合があります、このような牛により、畜主の気が付かない間に農場全体がヨーネ菌に濃厚汚染されていきます。

症 状

慢性的な水様性の下痢(黄褐色、泥状で血液の混入はまれで腐敗臭はありません)を繰り返し、数ヶ月から1年以上も続いて急激に痩せ衰弱死します。搾乳牛では乳量が激減、分娩後1ヶ月で泌乳停止する例もあります。

主に、3～5歳に発病。一般に症状は分娩後に顕在化する。

解剖所見では、腸管の粘膜が**肥厚し皺壁形成**(わらじ状)が見られるのが特徴です。

発 生 状 況

「ヨーネ病」は我が国で昭和46年に家畜法定伝染病に指定された疾病です。当時は輸入牛の少数に発生がみられていましたが、最近では日本各地で国産牛にも広がりました。乳用牛だけでなく**肉用牛での発生**も増加し、自家産牛の発生が認められています。

平成8年より6年間の発生(4,069頭)のうち**4割(1,613頭)が肉用牛**でした。

岐阜県では、平成11年9月に初めて北海道導入牛をヨーネ病で摘発、殺処分しました。

予 防 方 法

本病に有効なワクチン、治療法は無く、定期検査及び導入牛の検査により、感染牛、保菌牛を早期摘発するしかありません。(家畜導入には注意を！)

(1) ヨーネ病発生地域からの家畜導入は避ける。

(導入する場合は、ヨーネ病検査結果(陰性証明)の確認を行う)

(2) 導入牛は家畜保健衛生所が行う着地検査を受ける。

(導入前に検査を行っていても着地の際には再度検査を受けること)

(3) 感染牛の早期発見。

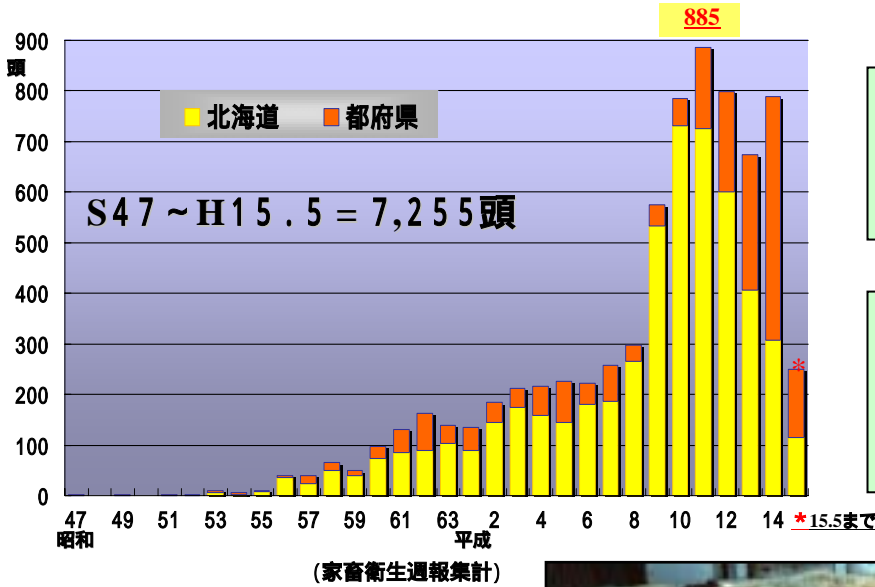
患畜及び保菌牛の摘発・殺処分及び汚染物の徹底した消毒が有効である。

a 患畜の隔離、淘汰(家畜伝染病予防法第17条に基づき殺処分)

b 牛舎、飼養器具・機材の消毒

牛舎の消毒は、除糞、清掃、洗浄後に**石灰塗布**を行うことが最も有効。

牛ヨーネ病の発生状況



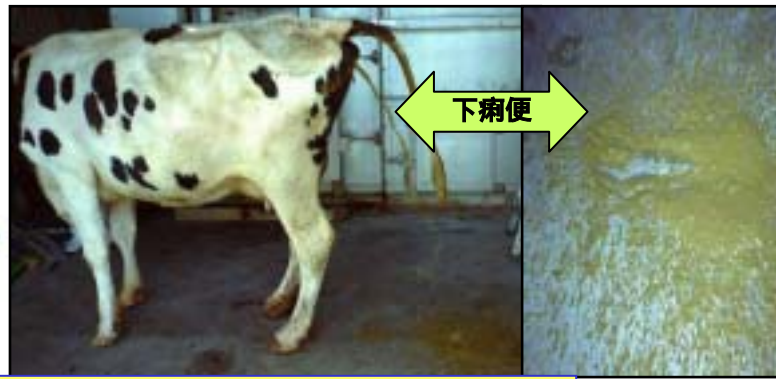
感染経路

- ・経口感染(糞便の汚染)
- ・汚染初乳
- ・胎盤感染

症状

- ・間歇性～慢性の下痢
- ・急激な消瘦
- ・泌乳量の低下・停止
(症状を示さない場合がある)

- : 100頭～
- : 50頭～
- : 25頭～
- : 1頭～
- : 0頭



岐阜県での初発淘汰牛(平成11年9月)

予防方法は、感染牛の早期発見と淘汰です。

ヨーネ病に有効なワクチンや治療法はありません。
牛舎などの徹底消毒が必要です。



石灰乳の塗布



岐阜県飛騨家畜保健衛生所

高山市 上岡本町 7 - 4 6 8

(0577)33-1111 Fax 32-9019

下痢、消瘦、泌乳低下を示す牛を発見したら、
家畜保健衛生所あるいは獣医師まで連絡してください。